



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

「ヒエヒエ」には「サワサワ」で付度

ぎゅっと抱き付くのが最近の娘のブームです。親としては至福の極致ですが、真冬の入浴前の裸の状態を抱き付かれると「ひよえー」と隣近所に私の悲鳴が響き渡ります。あんなの手は手袋外した雪の女王か??

ここまで冷たいと、しもやけが心配です。別名「凍瘡」、手足、耳たぶや鼻、頬に赤い発疹や腫れが生じ、かゆみ・痛みを伴います。水泡が破れて糜爛たり、指先が赤黒く変色する子もいました。

ビタミンEで血流を改善したり、ステロイドでかゆみを抑えたり、外用薬はあるのですが、改善しない場合に内服薬もほしいところです。西洋薬では効かない、ちよつと物足りない…こんな時の裏処方には漢方薬です。当帰四逆加呉茱萸生薑湯(38番)は、血行を改善し、体を温め、冷えによる痛みを抑えます。「四」肢から冷える

が体内に「逆」行する「四逆」症状を改善します。業界ではしもやけといえは38番というほど有名です。出典は葛根湯でおなじみ、漢時代の代表的古典「傷寒論」です。2000年の歴史があります。

「冷えると痛いです」

「手足が冷えたらお腹にきます」

「冷房に弱いです」

等の冷え症状がでたら考慮です。とある先生は、手足末端の冷えの触診と痛みの問診だけで即決し、他の症状は聞き流し付度されるそうです。

そう、「ヒエヒエ(冷冷)の能力」には「サワサワ(触触)の能力」で対抗を、そう言えるほどメジャーな漢方です。

そんなサワ(38)サワ(38)ですが、9種の生薬から構成されます。「当帰」「桂枝」の血行改善、「芍薬」の調整、「大棗」「甘草」の筋緊張緩和、腹痛軽減、「木通」の水分代謝、そして「細辛」の止痛、このほとんどに温める作用があります。これに肩こりや頭

痛に有名な「呉茱萸」、温める代表生薬「生姜」を加え、これでもかというくらい温めることと鎮痛に特化した構成です。

裏処方でもまだヒエヒエが…という場合、裏の裏やそのまた裏があるのが漢方薬の強みです。循環改善に真武湯を併用、さらに「冷え」とくれは「附子」を加える選択肢もあります。しもやけといえは静脈うっ血ですから桂枝茯苓丸の合方も期待できます。

附子は猛毒のトリカブトが原料です。加熱して減毒されているとはいえ、効果が出てきたら即減量を考慮する、附子中毒(舌の痺れ・動悸など)が現れたら中止するなどの注意が必要です。独特の味の悪さは単剤使用しないことで付度です。末端の冷え、胃腸の冷え、そして季節問わず、「ヒエヒエ」には全部付度して、まず38番を試してみるの如何でしょうか。ちよつと苦いですが。

(野瀬病院薬剤科 原 克樹)